



Open Source

Linux  
Java

10art-ni

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第9期事業報告書を株主の皆様にお届けし、当社の業績および今後の見通し等につきましてご報告申し上げます。

- 2005年12月期は、売上高が増加し、販売費および一般管理費も大幅に増えましたが、売上総利益率の改善もあり、経常利益は増益となりました。当期純利益は繰延税金資産の取り崩しがあったため減益となりました。
- 2005年12月期は、オープンソースソフトウェアサポートビジネスの強化、新製品・新ビジネスモデルの開発に努め、海外拠点の立ち上げの模索を進めました。
- 2006年12月期は売上高54億30百万円(対前期比28%増)、経常利益3億円(対前期比12%増)、当期純利益1億25百万円(対前期比43%減)を予想しています。
- 2006年の基本戦略は、
  1. Linuxビジネスの拡大
  2. Javaビジネスの差別化
  3. グローバルマーケットへの挑戦
  4. 新しいソフトウェアビジネスモデルへの挑戦
  5. 人材の積極的な採用です。

2006年の日本経済は全般に明るさが見えており、企業の設備投資も増加が見込まれます。こうした中、さらなる飛躍を遂げるべく、当社では基本戦略をもとに大いなる挑戦を試みてまいり所存です。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2006年3月  
代表取締役社長

喜多伸夫



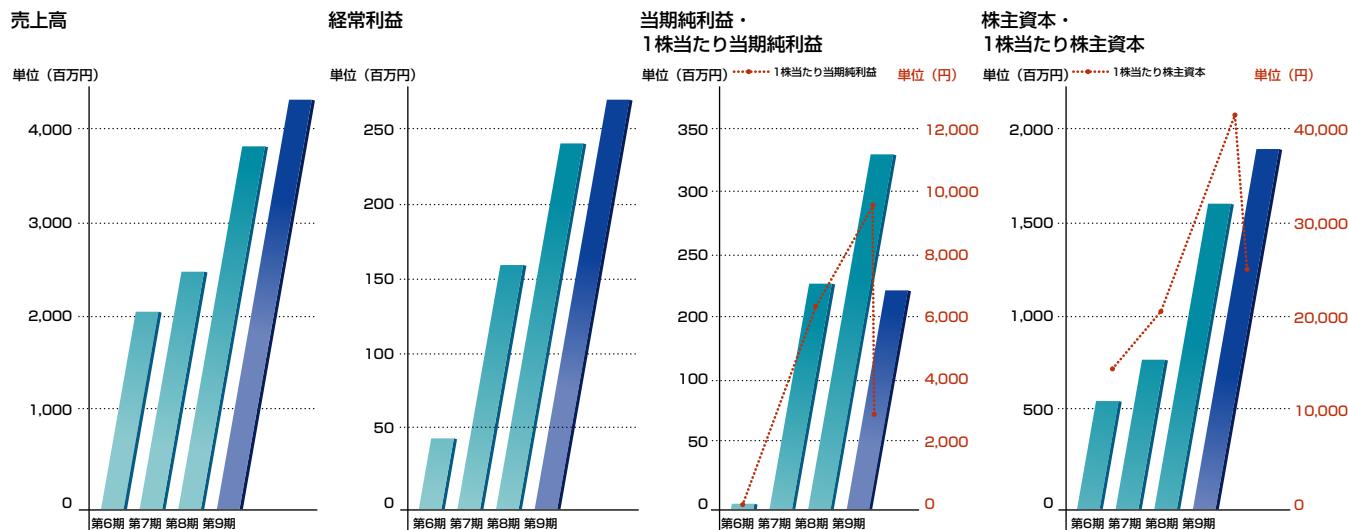
## Contents

株主の皆様へ	1
財務ハイライト	2
2006年基本戦略	3
時代を担うオープンソース&テンアートニ	5
部門別事業の概況	8
財務の状況	11
株式の状況	13
会社概要	14

(単位：百万円)

	第6期 2002年12月	第7期 2003年12月	第8期 2004年12月	第9期 2005年12月
売上高	2,029	2,594	3,848	4,247
経常利益	44	156	243	268
当期純利益	11	227	330	222
総資産	966	1,225	1,943	2,857
株主資本	507	734	1,585	1,871
1株当たり当期純利益(円)	325.08	6,338.50	9,019.29	2,924.34
1株当たり株主資本(円)	14,146.58	20,485.08	41,902.22	24,216.18
従業員数(名)	79	89	103	134

(注) 1.1株当たり当期純利益は、期中平均株式数により算出しております。  
2.2005年7月31日(基準日)で1株を2株に株式分割しております。



## 1 Linuxビジネスの拡大

IT関連の専門調査会社IDC Japanの調査によりますと、2006年の国内LinuxサーバーOS市場（ベンダー売上額ベース）<sup>※1</sup>は対前年比36%の成長見通しです。この追い風の環境において、Red Hat Enterprise Linuxサポート契約の拡販に注力し、市場におけるリーダーとしての地位を確固たるものとし、情報システムの障害時に待機用システムへの自動切り替えを行うHA（ハイアベイラビリティ）クラスソフトウェアLifeKeeperのLinux市場におけるライセンス売上は、国内第2位<sup>※2</sup>のシェアを確保していますが、同製品の販売を強化しシェアトップを目指します。

## 2 Javaビジネスの差別化

昨年7月から販売を開始した営業効率改善ソフトウェアSales Force Automation+の機能を拡張し差別化を進め、営業面において販売パートナーを増やすことにより、販売力を強化します。

SIビジネスにおいては、昨年8月から開始したソフトウェア開発プロセスにおけるテスト工程支援ビジネスを伸ばしていくことにより、高品質、低コストの受託開発にも繋げていきたいと考えています。

## 3 グローバルマーケットへの挑戦

1月27日に、LifeKeeperの開発元である米国SteelEye社<sup>※3</sup>の買収に関する基本合意締結について発表いたしました。同社買収の目的は、同社製品LifeKeeperの国内における販売強化のみならず、同社販売網を使った当社開発製品の販売を進めていくことも視野に入れたものです。

（※1）出典・・・IDC Japan「国内オペレーティングシステム市場2005年の分析と2006年～2010年の予測」（J6070101）

（※2）出典・・・IDC Japan「2005年国内HAクラスターリング／サーバーバーチャライゼーションソフトウェア市場」（J5071001）

#### 4 新しいソフトウェアビジネスモデルへの挑戦

ソフトウェア業界では、ユーザーからのコスト削減要求が毎年厳しくなっており、ユーザーはソフトウェアのライセンスロイヤリティを導入時に一括して支払う形より、その利用に応じて利用料を支払う形を望むようになってきました。当社の主力ビジネスであるRed Hat Enterprise Linuxのサポートは、ユーザーが1年間のサポート利用料を必要に応じ毎年購入するものであり、新しいビジネスモデルの代表的な例です。2006年はこのRed Hatビジネスを拡大していくだけでなく、他の製品においても同様のビジネスモデルの開発を進めていきます。

#### 5 人材の積極的な採用

2005年度は33名の増員でしたが、2006年度においては前年度以上の44名の増員を計画しております。これにより、技術陣の充実、営業力強化を図っていきます。

##### (※3) SteelEye社の概要

会社名	SteelEye Technology, Inc.
本社	米国カリフォルニア州パロアルト
設立	1999年11月
資本金	7,100千ドル
事業内容	LifeKeeperなどの開発、販売
従業員数	28名
売上高	5,112千ドル(約6億円)



## Staff Interview

「オープンソース」という言葉をご存知ですか？

テナートニが得意とするオープンソース。その魅力と将来性を社員に聞きました。



高橋謙一郎 (技術者)

プロダクト&SIビジネスユニット  
Linuxソリューション  
Linuxテクノロジーグループ  
テクニカル・スペシャリスト

通常の業務内容としては、システムの設計や構築を行っています。具体的にはネットワークサービスやデータベース等の基盤整備です。お客様がLinuxを使用してシステムを構築したいという際、ヒアリングを行い、その内容を実際のシステムに反映させていきます。

自分の知識や経験によって、お客様のニーズに限りなく近いものに仕上げていくのですが、稼動し始めたときに、お客様の喜ばれる顔、時には驚きまでされる顔を直接拝見できるので、技術者としては非常にやりがいを感じます。

### ■オープンソースの良さ

オープンソースの良さは、お客様のニーズを叶えるための開発が早いという点だと思います。ソースコード<sup>\*4</sup>をインターネット上に公開して、技術や知識を持つ世界中の開発者と有用な情報を共有することは、つまり桁違いに多くの開発者と一緒に解決策を探していくこととなります。お金を払っても使用する価値があるくらい、高度な技術情報が日々更新されているので、このようなオープンソースの考え方は今後も絶対に無くならないと思います。

今では、インターネットのシステムなどで、いろいろなオープンソースソフトウェアが使われるようになってきています。オープンソースソフトウェアで代表的なものがLinuxです。Linuxとは、厳密にはカーネルと呼ばれるもののことを言うのですが、これだけでは利用できません。他のソフトウェアと組み合わせ、活用できる形に構築してOS (オペレーティングシステム) という製品になります。今、Linuxカーネルを使ったOSで、世界で最も使われているのが当社の扱うRed Hat Enterprise Linux (レッドハットエ

ンタープライズリナックス) です。レッドハットエンタープライズリナックスは、信頼性が高く管理しやすいことが多くのユーザーから評価され、世界シェアNo.1となりました。

### ■コミュニティの存在

オープンソースというのは、文字通り「ソースが公開」されていることなのですが、これには技術者のボランティアで成り立っている集まりである「コミュニティ」と言われる存在が欠かせません。コミュニティでは、インターネットを使っているんな知識がやりとりされています。コミュニティ自体はたくさんありますが、特にレッドハットのコミュニティは参加者が多いので、自ずと情報量や信頼度が高くなっているのが特徴です。コミュニティに参加することで、例えばバグ<sup>\*5</sup>の情報がアップされていたら、お客様のシステムにもそれを回避する機能をすぐに追加しよう、というように実際の作業に移れるわけです。技術レベル・サポートレベルが向上していくのは参加する一番のメリットですね。

コミュニティへの参加は、会社として行っているものと、個人の情報発信として行うものがあります。当社には、会社としてコミュニティに参加しているスタッフもたくさんいます。もちろん仕事につながるためですが、同時に自分の財産にもなっていくと思います。

### ■お客様とオープンソースの橋渡し

自由に手に入れることの出来るオープンソースソフトウェアの普及により、ライセンスを購入しなければならないWindowsの技術・知識をベースとしたエンジニアも、オープンソースソフトウェアに関心を持っていなければならないようになってきたと思います。実際の現場でも、「商用ソフトウェアありき」の案件というのは非常に少なくなっており、多くの場合が「オープンソースってどうなの？」というようなどころから始まっているような気がします。オープンソースソフトウェアは、決して商用ソフトウェアに劣る

ものではないと思っていますし、もっとたくさんの方にLinuxを始めとしたオープンソースソフトウェアのことを知っていただきたいですね。もちろん、分からないところや複雑な部分を補うために、全面的なバックアップの役割を果たすのが我々だと思います。ノウハウをたくさん集めてお客様用にカスタマイズし、時代やニーズにあわせ、また運用時の手間や管理を低減することも考慮して、これからもお客様のご要望にお応えしていきたいと思っています。

(※4) ソースコード…ソフトウェアの設計図にあたるもの

(※5) バグ…ソフトウェアの不具合



国賀由慎 (サポート担当)

プロダクト&SIビジネスユニット  
Linuxソリューション  
テクニカル・サポートグループ  
テクニカル・スペシャリスト

お客様からのお問い合わせに、電話やメールで回答することが主な業務です。ほとんどがレッドハットエンタープライズリナックスに関するお問い合わせです。お問い合わせ件数は、新規のものだけでも週に100件以上になることもあります。短時間で明確な回答を差し上げることがとても重要だと思しますので、日々自分でも研鑽を積んで、仕事に取り組んでいます。

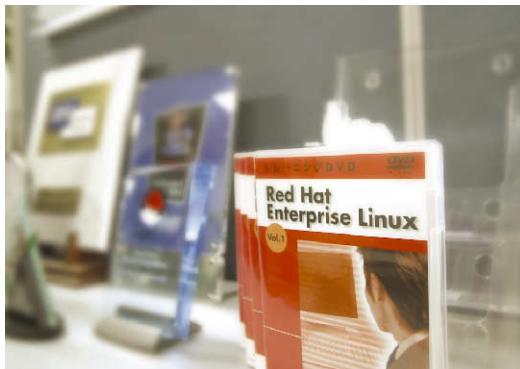
#### ■オープンソース・コンサルタント

お客様が商用ソフトウェアを導入する際、知識や技術が不足しているために、本当にその商用ソフトウェアの機能が必要かどうか分からない、というケースがあります。そのような場合は、オープンソースソフトウェアによる実現という選択肢がある事をアドバイスしています。

そして、システムを構築していくには、お客様の事情や要望に合わせてカスタマイズすることが重要だと感じています。Linuxの場合は、ソースコードが公開されているため、自分たちで自由にシステムを構築できることが最大のメリットですね。

システムを運用するには管理者が必要ですが、特にLinuxに関しては、ほとんどの企業には適した人材が確保されていないのが現状です。当社がその役割を一定期間担い、技術・知識もフィードバックし、お客様のLinuxの導入をご支援するケースはよくあります。

ユーザーが、技術に関するお問い合わせに対してきちんとした回答を得られることは一見当たり前のことのようにですが、商用ソ





ソフトウェアの場合はソースコードが公開されていない為、問題の特定が難しい場合があるようです。でも、当社のようにソースコードが公開されているLinuxを扱う会社には、このきちんとした回答をすることが、お客様から最も求められていることだと思います。レッドハットエンタープライズリナックスの製品情報に関してだけでなく、ネットワークに関連することやデスクトップ周辺、その他トラブルなど、システムに関する一般的なお問い合わせも多く寄せられます。それらにもしっかりと回答できるサポート窓口として、お客様からご満足いただいていると自負しています。

いわば当社は、Linuxの実践型コンサルティングを行っているといえるでしょう。

#### ■Linux活用ノウハウで勝負

オープンソースソフトウェアを使う事によるメリットは、エンドユーザには見えにくいと思います。オープンソースというのは公開されている「レシピ」のようなもので、それをどんな風に活用し、お客様が「おいしい」と思う料理をつくるか、と例えるとわかりやすいかもしれません。我々のような技術の人間にとっては、それらを活用するノウハウがあるかどうか勝負になると思います。

昔からオープンソースソフトウェアは、企業で使用するには機能や品質などが低いと言われていました。しかし最近では、世界中の優秀なソフトウェア技術者が皆で新規開発や改良を繰り返すコミュニティ活動が充実してきており、オープンソースの開発手法が、機能や品質レベルの高いソフトウェアを生み出すという事が認識されてきました。例えば、フィードバックの受け入れやバグ修正などの体制がきちんと整備されたものも多くなってきています。このような状況においては、オープンではないソースコードで「レシピ」が非公開、つまり社内だけでレシピを作って、その社内だけでそれを活用していても、たくさんのノウハウを蓄積することはできず、社会の変化のスピードについていけなくなるのではな

いでしょうか。

セキュアOSというソフトウェアの認知度がだんだん上がってきました。OS上でセキュリティを強化している点が特徴で、外部からの攻撃を未然に防ぐ機能が強化されています。当社では、その運用ノウハウをサービスとして展開しています。当社で扱っているSELinux<sup>※6</sup>とLIDS<sup>※7</sup>も、個人情報の保護、情報漏洩にとどまらず、社内での機密情報の管理にも役立つソリューションであり、これからの企業の内部統制体制充実のためには、大変有効なOSと言えます。

#### ■Linuxが支える未来

Linuxは、ユビキタス社会<sup>※8</sup>の実現に重要な役割を担っていくと思います。エンドユーザーに分かりやすいところでは、とにかく使いやすくなるパソコンが普及していくだろうと思います。また、家電製品には組み込みLinux、確実なセキュリティ確保のためにはSELinuxなどのセキュアOSが活用されるでしょう。これらの技術一つひとつが整備され、サービスの完成度が高まっていくことで、システム、インターネット、パソコンの環境は大きく変わっていくと思います。オープンソースであるがゆえに世界に広がるスピードが速いからです。そうするとLinuxが支える未来像が見えてきて、その中に自分があることに少しワクワクしながら、毎日の業務を行っています。

(※6) SELinux…米国安全保障局「NSA」が開発したLinux用のフリーのセキュアOS拡張機能

(※7) LIDS…Linuxを簡単にセキュアOSにすることができるフリーのセキュアOS拡張機能

(※8) ユビキタス社会…いつでもどこでも誰とでもどんな物とでも自由に情報のやり取りができる環境にある社会

# 部門別事業の概況

Linux関連事業／Java関連事業

当社は、LinuxやJavaを使った情報システムのハードウェアからソフトウェアまでを、販売パートナー様を通じてお客様に提供しています。

Linuxはマイクロソフト社のWindowsと並ぶ基本ソフトウェア(コンピュータを動かす為の“もと”となるソフトウェア)です。世界中のソフトウェア開発者の支援により開発が進められ、ソフトウェアの中身は全て公開されています。近年は認知度の向上とともに、目覚ましい市場拡大を遂げ、今後も順調な伸びが期待されています。



出典：IDC Japan 「国内オペレーティングシステム市場2005年の分析と2006年～2010年の予測」(J6070101)

Javaは、インターネットや社内ネットワーク上のシステムを構築する際によく使われるプログラミング言語です。WindowsやLinuxなどの基本ソフトウェアに制約されないことが大きな特徴です。インターネットの普及拡大と共に、Javaにより開発された情報システムの市場も順調に伸びてきています。

当期の部門別売上高はLinux関連事業が対前期比14.9%増の3,246百万円、Java関連事業が対前期比2.2%減の1,001百万円でした。

# 部門別事業の概況

## Linux関連事業

ソフトウェアビジネス、SIビジネス、サーバービジネスの3事業で構成されています。

ソフトウェアビジネス  
2,524百万円

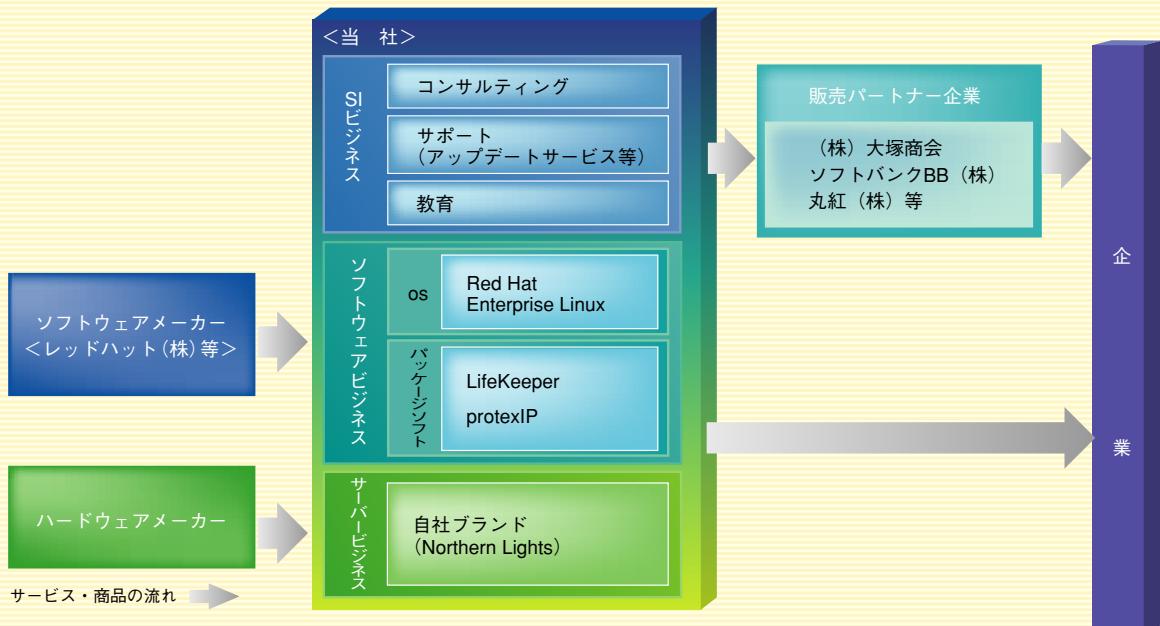
SIビジネス  
451百万円

サーバービジネス270百万円

創業以来培ってきたLinuxに関連するソフトウェア、ハードウェアの技術力、サポートノウハウ、システム構築力を強みに、営業力のあるソフトウェア販売会社や情報システムの企画・運用力のある大手システムインテグレータなどの販売パートナー様と協業し、お客様のニーズに応じています。

当期からLinuxにおけるセキュリティ機能強化を支援するサービスを開始しました。この機能はLinuxに組み込まれていますが、それを有効に使うためにはLinuxに関する高度な知識が必要となります。

当期のLinux関連事業におきましては、Red Hat Enterprise Linux や LifeKeeper などのソフトウェアを販売・サポートするソフトウェアビジネスは、販売パートナー企業の様々な要求を的確に把握し、きめ細かな対応を行うことにより売上が伸びることができました。また、Linuxを使った情報システム構築ビジネスであるSIビジネスは、優秀な技術者を採用し、技術力を強化した結果、売上が増加しました。一方で、Linuxを搭載したサーバーハードウェアの販売を行っているサーバービジネスは、競合の激化により売上が大幅に減少しました。



## Java関連事業

SIビジネス、ソフトウェアビジネスの2事業で構成されています。

SIビジネス  
837百万円

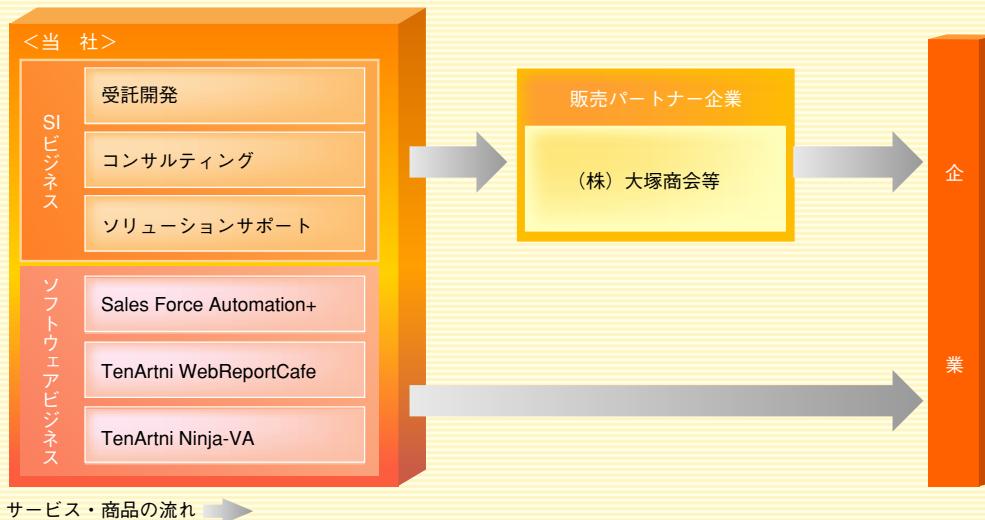
ソフトウェアビジネス  
163百万円

インターネットの技術を利用した企業内システムを、Javaを使って構築しています。日本でJavaが紹介された当初から、Javaによる企業内システムを開発し続け培われたノウハウや技術力、開発力を強みに、大手システムインテグレータなどの販売パートナー様と協業し、お客様のニーズに応じています。

開発期間を短縮化し、品質の高い情報システムを実現する TenArtni Ninja-VAなどの製品群も、当社の技術力を集約したものです。

当期は、Sales Force Automation+を7月から発売し、当期中に4案件を受注しました。

当期のJava関連事業におきましては、厳しいコストダウン要求が続く中、売上総利益の確保を目指し、確実に利益の取れるSI案件の受注、市場競争力のある当社開発のソフトウェア製品の販売とサポートに注力した結果、売上高は対前期比若干の減少をしたものの、売上総利益は大幅に伸ばすことができました。





流動資産が前期末に比べ875百万円増加しましたが、主に売上増加に伴う売掛金及び商品在庫の増加等によるものです。

## 貸借対照表

(単位：千円)

資産の部	第8期 2004年12月31日	第9期 2005年12月31日
<b>流動資産</b>	<b>1,731,663</b>	<b>2,607,293</b>
現金及び預金	757,755	734,648
受取手形	6,436	-
売掛金	562,262	926,398
たな卸資産	208,462	495,692
前渡金	45,368	360,980
繰延税金資産	146,077	101,750
その他流動資産	5,776	13,331
貸倒引当金	△475	△25,508
<b>固定資産</b>	<b>212,199</b>	<b>250,350</b>
有形固定資産	37,908	41,440
無形固定資産	48,804	59,791
投資・その他固定資産	125,486	149,118
<b>資産合計</b>	<b>1,943,862</b>	<b>2,857,644</b>



流動負債が前期末に比べ613百万円増加しましたが、主に仕入れが増加したことによる買掛金の増加及びサポートの更新契約件数の伸びに伴う前受金の増加によるものです。

## 負債の部

<b>流動負債</b>	<b>309,741</b>	<b>922,803</b>
買掛金	118,150	370,158
前受金	94,944	421,216
その他流動負債	96,646	131,429
<b>固定負債</b>	<b>48,541</b>	<b>63,656</b>
退職給付引当金	22,736	34,050
役員退職慰労引当金	5,500	9,300
その他固定負債	20,305	20,305
<b>負債合計</b>	<b>358,282</b>	<b>986,460</b>



資本合計が前期末に比べ285百万円増加しましたが、株式発行による資本金、資本準備金の増加及び当期末処分利益の増加によるものです。

## 資本の部

資本金	945,515	977,315
資本剰余金	325,300	357,100
資本準備金	325,300	357,100
利益剰余金	314,765	536,769
当期末処分利益	314,765	536,769
<b>資本合計</b>	<b>1,585,580</b>	<b>1,871,184</b>
<b>負債資本合計</b>	<b>1,943,862</b>	<b>2,857,644</b>

## 損益計算書

(単位：千円)

	第8期		第9期	
	自2004年1月1日	至2004年12月31日	自2005年1月1日	至2005年12月31日
売上高	3,848,007		4,247,421	
Linux売上高	2,824,892		3,246,372	
Java売上高	1,023,114		1,001,049	
売上原価	2,883,989		2,952,639	
売上総利益	964,018		1,294,781	
販売費及び一般管理費	713,398		1,024,264	
営業利益	250,619		270,517	
営業外収益	10,324		885	
営業外費用	17,922		2,858	
経常利益	243,021		268,544	
特別利益	27,068		-	
特別損失	5,357		-	
税引前当期純利益	264,732		268,544	
法人税、住民税及び事業税	2,290		2,213	
法人税等調整額	△68,152		44,327	
当期純利益	330,594		222,004	
前期繰越利益又は前期繰越損失(△)	△15,829		314,765	
当期末処分利益	314,765		536,769	

Java関連事業を中心に売上総利益率の改善に努めた結果、売上総利益は対前期比34.3%増となりました。

技術者によるユーザーニーズへのきめ細かな対応による営業支援費の増加、人件費の増加及び貸倒引当金の個別設定等により対前期比43.6%増となりました。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	第8期		第9期	
	自2004年1月1日	至2004年12月31日	自2005年1月1日	至2005年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	38,894		△33,174	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△56,646		△53,531	
財務活動によるキャッシュ・フロー	520,800		63,600	
現金及び現金同等物の増加額	503,048		△23,106	
現金及び現金同等物の期首残高	254,706		757,755	
現金及び現金同等物の期末残高	757,755		734,648	

現金及び現金同等物の期末残高は、売上債権の増加等の減少要因、仕入債務の増加等の増加要因により相殺されたものの、前期末より23百万円減少し、734百万円となりました。

## 利益処分計算書

(単位：千円)

	第8期		第9期	
	自2004年1月1日	至2004年12月31日	自2005年1月1日	至2005年12月31日
当期末処分利益	314,765		536,769	
利益配当金	-		38,635	
次期繰越利益	314,765		498,134	

第9期末の株主に対し、一株あたり500円の配当を実施しました。

■株式の状況

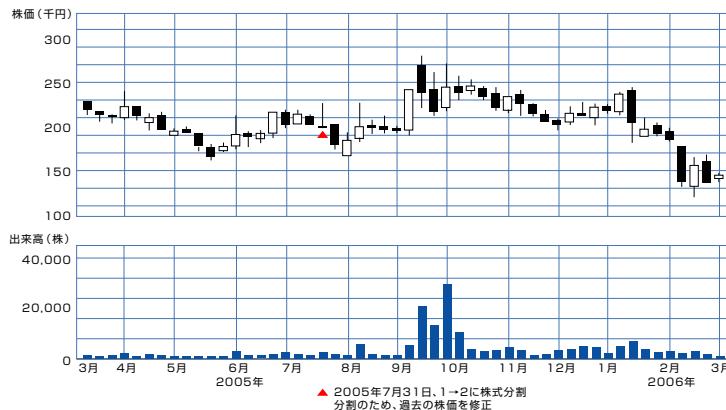
会社が発行する株式の総数	150,000株
発行済株式総数	77,270株
株主数	4,658名

■大株主

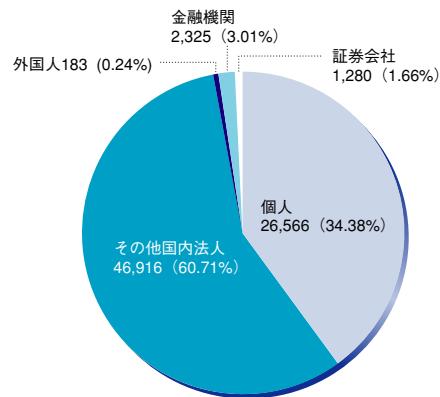
株主名	持株数 (株)	議決権比率 (%)
株式会社大塚商会	40,808	52.81%
稲畑産業株式会社	3,740	4.84%
日本証券金融株式会社	2,145	2.77%
喜多 伸夫	1,448	1.87%
高橋 典正	840	1.08%
日本電気株式会社	800	1.03%
井原 陽三	644	0.83%
木塚 修一	521	0.67%
マネックス証券株式会社	463	0.59%
大塚 厚志	400	0.51%
日本ヒューレット・パッカード株式会社	400	0.51%

※議決権比率は、小数点以下第3位を切り捨て

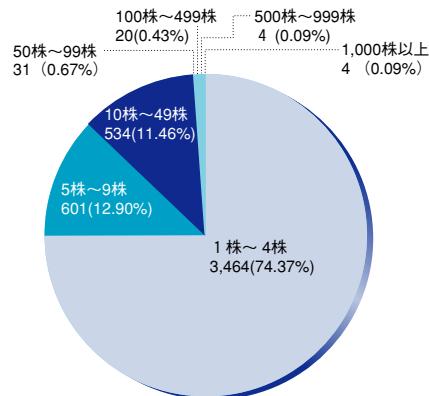
■株価チャート



■所有者別株式分布状況 (株式数)



■所有株数別株主分布状況 (株主数)



会社名	株式会社テンアートニ (英語表記： 10art-ni Corporation)
本社住所	東京都千代田区外神田二丁目15番2号 新神田ビル
設立	1997年5月23日
資本金	979,955千円
従業員数	134名 (2005年12月31日現在)
決算	年1回 (12月)
役員	代表取締役社長：喜多 伸夫 取締役： 三小田 良次 取締役： 阿部 尊幸 取締役： 後藤 和彦 取締役： 田中 修 常勤監査役： 堀 岩雄 監査役： 古畑 克巳 監査役： 河辺 春喜
交通	地下鉄銀座線 末広町駅より 徒歩 5分 JR 御茶ノ水駅より 徒歩 7分 JR 秋葉原駅より 徒歩 12分

#### アンケートのお願い

当社の事業報告書をご覧いただき、誠にありがとうございました。株主の皆様との一層のコミュニケーションの充実を図るため、同封のハガキによるアンケートにご協力いただきたくお願い申し上げます。

● ホームページ



<http://www.10art-ni.co.jp/>

● 株主メモ

決算期	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
基準日	毎年12月31日
	その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
名義書換代理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
決算公告掲載	当社は決算公告を当社ホームページ上に掲載しています。 <a href="http://www.10art-ni.co.jp/ir/kessankoukoku.html">http://www.10art-ni.co.jp/ir/kessankoukoku.html</a>
その他の公告掲載紙	日本経済新聞
上場取引所	東証マザーズ
コード番号	3744